

6 具体的研修内容

(1) 相談支援従事者研修

① 相談支援従事者初任者研修標準カリキュラム

科目	獲得目標	内 容	時間数
1 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律の概要及び相談支援事業従事者の役割に関する講義 (6.5時間)			
障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律の概要	障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律及び児童福祉法の趣旨、目的やサービス内容の基本的な理解を深める。障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律におけるケアマネジメントの制度化と市町村における相談支援事業の役割を理解する。	これまでの障害福祉の概要と制度の変遷を踏まえ、利用者の自立支援を図るために必要な障害福祉サービス及び児童福祉法によるサービスの意義と目的等、制度の概要を理解する。(自立支援給付、地域生活支援事業、自立支援医療、補装具、利用者負担減免措置、障害福祉計画、不服申し立て及び障害児通所支援等についてふれる。)また、地域移行支援、地域定着支援及び障害児相談支援の目的、対象者、支援内容、留意点などを理解する。	3.0
障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律等における計画作成とサービス提供のプロセス	サービス提供に当たっての一連のプロセスを理解する。	障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律におけるサービス提供のプロセス(申請、サービス等利用計画案の作成、支給決定、サービス等利用計画の作成、個別支援計画の作成、モニタリング)を理解する。 特に、サービス等利用計画と個別支援計画の関係及び相談支援専門員とサービス管理責任者との連携について理解する。	2.0
相談支援の基本姿勢	相談支援において重視すべき理念等について理解する。	ケアマネジメントにおける基本姿勢について理解する。例えば①ノーマライゼーションの実現、②自立と社会参加、③主体性、自己決定の尊重・支援、④地域における生活の個別支援、⑤エンパワメントの視点などについて具体的な場面を想定して説明する。	1.5

科目	獲得目標	内 容	時間数
2 ケアマネジメントの手法に関する講義（8時間）			
ケアマネジメント （概論）	ケアマネジメントのプロセスと技術について理解する。	ケアマネジメントの目的、プロセス（アセスメント、プランニング、モニタリング等）、障害者の生活ニーズの捉え方など障害者ケアマネジメントの概論を理解する。	2
ケアマネジメントの実践	実例を通して、アセスメント・サービス利用計画作成・社会資源の活用と調整、モニタリングを理解する。	サービス等利用計画作成費対象者の事例をもとに、前半2日間の講義を受けて一連のプロセスをシミュレーションし理解する。（相談面接から主訴の把握、生活機能とその背景の把握、利用者の状況等、事例検討等を行うことにより、アセスメント等の理解を深める。生活の目標に向けたサービス及び社会資源の活用と調整等やモニタリングの具体的内容について理解する。）	6
3 障害者の地域支援に関する講義（6時間）			
障害児者の地域生活支援	障害児者の地域生活における社会資源の役割や支援内容を理解する。	障害者の地域生活において、ICFの視点をもとに人的支援、環境整備、就労支援、家族支援、医療、教育などの支援について実情を具体的に理解する。 （例えば障害者支援施設や精神科病院からの地域移行事例や重症心身障害児の地域生活事例などを例に、障害児者の地域生活における課題解決のための社会資源の活用についてふれる。）	1. 5
相談支援における権利擁護と虐待防止	ケアマネジメントプロセス全般における権利擁護の視点と虐待防止などにおいて果たすべき役割を理解する。	具体的なケアマネジメント事例を通して障害者の権利擁護について理解する。また、障害者虐待防止法の概要と、各事業所が果たすべき役割を理解する。その上で、成年後見制度や日常生活自立支援事業等の関連制度の重要性についても理解する。	1. 5
協議会の役割と活用	協議会の必要性と運営方法について理解する。	地域の社会資源の整備状況等のアセスメント（地域診断）を行い、その地域の課題を理解するとともに、協議会の役割を踏まえ、地域づくりのステップアップについて理解する。 また、地域の相談支援事業所への支援などの基幹相談支援センターの役割及び同センターと協議会との関係について理解する。	3

科目	獲得目標	内 容	時間数
4 ケアマネジメントプロセスに関する演習（11時間）			
実習ガイダンス	実際の事例を選定して、ケアマネジメントプロセスを個別学習することによって、演習につなげる。※	実習の目的、ねらい、方法、アセスメントツールについて解説を行う。	1
演習Ⅰ	課外実習で作成した各自のアセスメント表、サービス等利用計画案を発表し、相互の事例の理解を深める。	各自の事例を発表し、情報交換し、演習Ⅱの事例を選択する。	3
演習Ⅱ	模擬的なサービス担当者会議を通じて事例検討を行いケアマネジメント手法を具体的に理解する。	グループによって選択した事例をもとに役割を分担して模擬的なサービス担当者会議等を行い、サービス等利用計画書を完成させる。	4
実習ガイダンス	実際の事例を選定して、ケアマネジメントプロセスを個別学習することによって、演習につなげる。※	実習の目的、ねらい、方法、アセスメントツールについて解説を行う。	1
演習のまとめ	発表事例の事後的・客観的評価により実習・演習の総括を行う。	発表事例の中から数例を選び、モニタリングの方法、事後的・客観的評価を行うことにより、総合的な援助の方針及び目標設定の整合性を確認し、ケアマネジメントについての理解を深める。	3
合 計			31.5

※ 在宅の事例を1事例選定し、ケアマネジメントプロセスを課外実習する。

② 相談支援従事者現任研修標準カリキュラム

科目	獲得目標	内 容	時間数
1 講義（6時間）			
障害者福祉の動向について	障害者福祉施策及び関連施策に関する最新の動向を理解する。	障害者福祉施策の他、介護保険制度、生活保護、年金、医療、労働等、関連施策の最新の動向について理解する。	1
地域生活支援事業について	地域生活支援事業に関連する事例を分析し、専門的な支援が必要な事例の支援方法を学ぶ。	地域生活支援事業の事業内容について、事例を通してその事業の活用方法を理解するとともに、専門的な支援が必要な事例の支援方法を検討する。 (例) 発達障害児者の支援、高次脳機能障害者の支援、権利擁護（虐待防止）に関する取り組み、障害者就業・生活支援センターによる就労支援など。	1
相談支援の基本姿勢及びプロセスについて	相談支援において重視すべき理念及び相談支援の意義や役割等について理解する。	相談支援専門員としての基本的姿勢、役割、専門性を理解する。①ノーマライゼーションの実現、②自立と社会参加、③主体性、自己決定の尊重・支援、④地域における生活の個別支援、⑤エンパワメントの視点などについて具体的な場面を想定して説明する。また、「個別支援計画に至るまでの支援」、「ニーズの掘り起こし」など多様な相談支援の在り方について理解する。	2
協議会について	協議会の運営等、地域の関係機関とのネットワークづくりについて理解する。	協議会の運営、地域課題へのアプローチ方法（地域診断から課題抽出へ至る）について整理するとともに、地域生活支援のネットワークづくり、地域生活支援システムの構築方法を検討する。	2
2 障害者ケアマネジメントに関する演習（12時間）			
障害者ケアマネジメントの実践（演習）	支援事例等の検討を行い相談支援従事者としての実務能力を向上させる。	各受講者の相談支援事例を発表し支援の検証を行う。発表事例や対応困難な事例について、演習方法により、ケアマネジメントプロセスの実施状況、チームアプローチのあり方等について、自己評価を含め、総合的な視点で検討する。	6
スーパーバイズ	スーパーバイズを経験することにより、相談支援の質を確保する方法を理解する。	演習で発表した事例の中から選んだ数例について、自己評価とあわせて、講師又は受講生相互によるスーパーバイズを経験することにより、サービス等利用計画作成、サービス担当者会議の運営、モニタリング等に係るポイント、社会資源の開発改良のポイントを理解する。	6
合 計			18

③ 専門コース別研修標準カリキュラム

【 障害児支援 】

科目	獲得目標	内 容	時間数
1. 各種制度の概要及び障害児の生活ニーズを理解する。(講義)			
テーマを決めて概要を説明 (講義Ⅰ)	(例) 発達障害の概要を理解する。	発達障害の定義、診断基準などの説明	45分
障害の特性理解 (講義Ⅱ)	(例) 発達障害の生活ニーズを理解する。	障害当事者、家族、支援者等による事例紹介	1.0
関係機関等の理解 (講義Ⅲ)	(例) 発達障害児を支援する上で必要な関係機関を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・保健・医療機関 ・教育機関 ・福祉機関(保育所、発達障害支援センター、相談支援事業所) 	45分
2. 障害児支援における相談支援(演習)			
実践事例の報告 (演習Ⅰ)	障害児支援における相談支援の役割と関わり方を獲得する。	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援従事者における障害児家族支援の状況の実践報告を受け、グループワークを通して確認する。 ・実践報告の事例を通して、療育・教育・相談支援従事者等の連携を確認する。 	1.5
事例を活用し実際に支援体制を組み立てる (演習Ⅱ)	具体的に事例を使い障害児支援の体制作りを獲得する。	<ul style="list-style-type: none"> ・受講者の事例を持ち寄りそれぞれの抱えている課題を共有する。 ・グループで1事例選択し、課題解決に向けた支援体制作りを検討する。 ・グループごとに検討した内容を発表し全体で共有する ・全体の共有の後に各グループで再度振り返りをする。 	1.5
総括	研修のポイントの再確認・自己の事例を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で自己の振り返りを共有 	1.0
合 計			6.5

【 権利擁護・成年後見制度 】

科目	獲得目標	内 容	時間数
1日目 1.各種法制度の概要及び相談支援従事者の役割を理解する。(講義)			
法制度の概要	権利擁護に関する各種法制度の基本的な理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者権利条約、障害者虐待防止法等の法制度概要 ・成年後見制度、日常生活自立支援事業の制度概要 	2.5
権利侵害・虐待	虐待の定義、実情の理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待の定義、内容 ・権利侵害の状況 	1.0
各機関の役割	関係機関の役割を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・弁護士等の職能団体、都道府県権利擁護センター、行政等の関係機関の職務、職域概要 	1.0
実践事例報告 (シンポジウム形式)	相談支援事業所の役割、関係機関との連携について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・障害児者への虐待、権利侵害事例に対する具体的実践 ・協議会の活用 ・関係機関の役割分担、連携方法 	2.5
2日目 2.相談支援に必要な権利擁護の視点(演習)			
実践事例の報告 (演習Ⅰ)	相談支援の役割、関係機関との連携等による支援方法の視点を広げる。	<ul style="list-style-type: none"> ・障害児者の権利を保障する支援方法や介入、機関連携について、グループワークを行う。 	3.0
事例を活用し実際に支援体制を組み立てる(演習Ⅱ)	具体的に事例を使い権利擁護、虐待防止の支援体制作り(地域連携)を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで1事例選択し、課題解決に向けた支援体制作りを検討する。 ・グループ発表し、全体で共有し、再度振り返る。 	3.0
総括	研修のポイントの再確認	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の事例について、アドボカシーやエンパワメント等の視点を含め、相談支援の実践を振り返る。 ・グループ内で自己の振り返りを共有 	1.0
合計			14

【 地域移行・定着、触法 】

科目	獲得目標	内 容	時間数
1日目 1. 各種法制度の概要及び相談支援従事者の役割を理解する。(講義)			
法制度の概要	障害者の地域移行に必要な各種法制度の基本的な理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律等を主とした法制度の概要 ・地域生活支援に関する制度(住宅政策、日常生活自立支援事業等)の概要 	45分
都道府県及び市町村の地域移行支援状況	地域移行の現状、地域の支援体制を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域移行の流れや関係者の役割等 ・地域の実情や支援体制の説明 	45分
障害者及び家族の理解	障害者や家族の基本的特性を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・家族支援の在り方 等 	1.0
1日目 2. 障害者地域移行支援における相談支援(演習)			
実践事例の報告(演習Ⅰ)	障害者の地域移行における相談支援の役割と関わり方を獲得する。	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援従事者による地域移行支援の状況の実践報告を受け、グループワークを通して確認する。 ・実践報告の事例を通して、地域での関係機関と相談支援従事者等の連携を確認する。 	1.5
事例を活用し実際に支援体制を組み立てる(演習Ⅱ)	具体的に事例を使い障害者の地域移行の体制作りを獲得する。	<ul style="list-style-type: none"> ・受講者が事例を持ち寄り、それぞれの抱えている課題を共有する。 ・グループで1事例選択し、課題解決に向けた支援体制作りを検討する。 ・グループごとに検討した内容を発表し全体で共有する。 ・全体の共有の後に各グループで再度振り返りをする。 	1.5
総括	研修のポイントの再確認	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の事例を振り返る。 ・グループ内で自己の振り返りを共有 	1.0
2日目 1. 各種法制度の概要及び相談支援従事者の役割を理解する。(講義)			
法制度の概要	触法障害者に関わる各種法制度の基本的な理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律・心神喪失者等医療観察法・少年法、地域生活定着支援事業等を主とした法制度の概要や仕組みの説明 	45分

科目	獲得目標	内 容	時間数
触法障害者等への支援状況	地域の触法障害者の生活状況、支援体制を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・触法障害者への支援導入の流れや関係者の役割等の説明 ・地域生活定着支援センターの支援状況の説明 ・地域の実情や支援体制の説明 	45分
触法障害者及びその家族の理解	触法障害者や家族の基本的特性を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・触法障害者の障害特性 ・家族支援の在り方 	1.0
2日目 2. 触法障害者支援における相談支援（演習）			
実践事例の報告 （演習1）	触法障害者支援における相談支援の役割と関わり方を獲得する。	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援事業における触法障害者支援の状況の実践報告を受け、グループワークを通して確認する。 ・実践報告の事例を通して、保護観察官、社会復帰調整官、保護司、教育関係者、相談支援従事者等の連携を確認する。 	1.5
事例を活用し実際に支援体制を組み立てる（演習2）	具体的に事例を使い触法障害者支援の体制作りを獲得する。	<ul style="list-style-type: none"> ・受講者の事例を持ちよりそれぞれの抱えている課題を共有する。 ・グループで1事例選択し、課題解決に向けた支援体制作りを検討する。 ・グループごとに検討した内容を発表し全体で共有する。 ・全体の共有の後に各グループで再度振り返りをする。 	1.5
総括	研修のポイントの再確認	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の事例を振り返る。 ・グループで自己の振り返りを共有 	1.0
合計			13

【セルフマネジメント】

科目	獲得目標	内 容	時間数
1. セルフマネジメントの概要及びその支援について理解する。(講義)			
セルフマネジメント 概論	当事者運動の背景を学び、 当事者主体、セルフマネジ メント支援についての理解 を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者の当事者運動の歴史 ・セルフマネジメント及び支援の概要 	45分
エンパワメント概論	エンパワメント及びその支 援について理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・障害児者(家族含む)のエンパワメントを支援す る視点、アプローチ 	45分
実践事例報告	当事者や支援者からの実践 報告を受け、セルフマネジ メント支援における相談支 援事業所の役割を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・セルフマネジメントによる生活の実際、課題提起 ・セルフマネジメントの実現に向けた相談支援の展 開 	1.5
2. セルフマネジメント支援における相談支援従事者の役割を学ぶ(演習)			
セルフマネジメント 支援における相談支 援従事者の役割(演 習Ⅰ)	障害者のセルフマネジメン トを支援する上での役割を 学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・講義等を参考として、自己の相談支援を振り返る。 また、セルフマネジメントにおける相談支援従事者 の役割について考える。 ・グループ内で発表し、整理、共有する。 	1.5
セルフマネジメント 支援における相談支 援従事者の役割(演 習Ⅱ)	障害者のセルフマネジメン トを支援する上での役割を 学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで検討した相談支援従事者の役割を全体 発表し、共有する。 ・その後、グループで再度確認する。 	1.0
総括	研修のポイントの再確認	<ul style="list-style-type: none"> ・セルフマネジメント支援における相談支援従事者 の役割について整理する。 ・グループ内で自己の振り返りを共有 	1.0
合 計			6.5

【 スーパービジョン・管理・面接技術 】

科目	獲得目標	内 容	時間数
1. スーパービジョンの意義と活用を理解する。(講義)			
スーパービジョンの概要	スーパービジョンに関する基本的な理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者福祉の実践におけるスーパービジョンの意義 ・スーパービジョンの機能と構造 	1. 0
スーパービジョンの活用	スーパービジョンの具体的な技術を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパービジョンの場面 ・技法 	1. 5
2. スーパービジョンの実際と活用(演習)			
スーパービジョンの実際 (演習Ⅰ)	実際の場面におけるスーパービジョンの構造を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・受講者の持ち寄った事例を通して、グループ内で機能や構造を確認する。 	1. 0
スーパービジョンの活用 (演習Ⅱ)	事例を通して、スーパービジョンの場面を確認し、機能を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで1事例選択し、課題解決に向けた支援体制作りを検討する。 ・検討した支援体制を想定し、ロールプレイで確認する。 ・ロールプレイで確認できたことを踏まえ、支援体制を修正する。 ・グループごとに検討した内容を発表し全体で共有する。 ・全体の共有の後に各グループで再度振り返りをする。 	2. 0
総括	研修のポイントの再確認	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の事例を振り返る。 ・グループ内で自己の振り返りを共有 	1. 0
合 計			6. 5

(2) サービス管理責任者等研修

① サービス管理責任者研修標準カリキュラム

科目	区分	内 容	時間数
1 サービス管理責任者の役割に関する講義（6時間）			
障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律とサービス管理責任者の役割及び児童福祉法と児童発達支援管理責任者の役割	共通	障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律における各事業の機能とサービス内容、サービスの質を確保するために必要なサービス管理責任者の基本的な役割及び児童福祉法における障害児支援制度や支援内容、支援の質を確保するために必要な児童発達支援管理責任者の基本的な役割等について解説	2
サービス提供及び支援提供のプロセスと管理	共通	サービス提供及び支援提供のプロセス全体を解説するとともに、サービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者がそのプロセスにどのように係わるかを具体的に解説	2
サービス提供者と関係機関の連携及び支援提供職員と関係機関の連携	共通	実際のサービス提供現場における、事業者又はサービス提供職員とそれを取り巻く様々な関係機関等とのネットワーク構築及び支援提供現場における、事業者又は支援提供職員と各関係機関等とのネットワーク構築の事例解説	2
2 アセスメントやモニタリングの手法に関する講義（3時間）			
アセスメントとサービス提供の基本姿勢	分野別	アセスメント技法や特に配慮しなければならないポイントについて解説	3
3 サービス提供プロセスの管理に関する演習（10時間）			
「サービス提供プロセスの管理の実際 事例研究①」（アセスメント編）	分野別	標準的なサービス提供のプロセスに沿って支援が実施された事例に基づき、支援方針の基本的な方向性やサービス内容を左右する利用者像の把握や目標設定などの事項に重点を置いて演習を展開する。	4
「サービス提供プロセスの管理の実際 事例研究②」（個別支援計画編）	分野別	事例研究①と同様に、障害内容等の異なるより困難な事例を用いて、アセスメント結果がすでに明らかとなっている状況から正確な個別支援計画書を作成・修正できるかと言った観点から演習を展開する。	3
サービス内容のチェックとマネジメントの実際（模擬会議）	分野別	個別支援計画の作成に係る会議をシミュレーションし、サービス管理責任者としてサービス提供者が展開する様々なサービス内容をチェックし、支援チームに対するマネジメントの方法について演習する。	3
合 計			19

② 児童発達支援管理責任者研修標準カリキュラム

科目	内 容	時間数
1 児童発達支援管理責任者の役割に関する講義（6時間）		
児童福祉法と児童発達支援管理責任者の役割及び障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律とサービス管理責任者の役割	児童福祉法における障害児支援制度や支援内容、支援の質を確保するために必要な児童発達支援管理責任者の基本的な役割及び障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律における各事業の機能とサービス内容、サービスの質を確保するために必要なサービス管理責任者の基本的な役割等について解説	2
支援提供及びサービス提供のプロセスと管理	支援提供及びサービス提供のプロセス全体を解説するとともに、児童発達支援管理責任者及びサービス管理責任者がそのプロセスにどのように関わるかを具体的に解説	2
支援提供職員と関係機関の連携及びサービス提供者と関係機関の連携	実際の支援提供現場における、事業者又は支援提供職員と各関係機関等とのネットワーク構築及び実際のサービス提供現場における、事業者又はサービス提供職員とそれを取り巻く様々な関係機関等とのネットワーク構築の事例解説	2
2 アセスメントやモニタリングの手法に関する講義（3時間）		
アセスメントと支援提供の基本姿勢	アセスメント技法や特に配慮しなければならないポイントについて解説	3
3 支援提供プロセスの管理に関する演習（10時間）		
「支援提供プロセスの管理の実際事例研究①」（アセスメント編）	標準的な支援提供プロセスに沿って支援が実施された事例に基づき、支援方針の基本的な方向性や支援内容を左右する利用者像の把握や目標設定などの事項に重点を置いて演習を展開する。	4
「支援提供プロセスの管理の実際事例研究②」（個別支援計画編）	事例研究①と同様に、アセスメント結果がすでに明らかとなっている状況から正確な個別支援計画書を作成・修正できるかと言った観点から演習を展開する。	3
支援内容のチェックとマネジメントの実際（模擬会議）	個別支援計画の作成に係る会議をシミュレーションし、児童発達支援管理責任者として支援提供者が展開する様々な支援内容をチェックし、支援チームに対するマネジメントの方法について演習する。	3
合 計		19

③ サービス管理責任者等スキルアップ研修

- ・ サービス管理責任者等に従事する者が必要とする内容での研修を企画

(3) 障害福祉サービス等従事者基礎研修

- ① 事業者研修（法人代表、役員等）
 - ・ 障害者総合支援法及び運営基準等について
 - ・ 障がい福祉サービス等についての基本的な知識
 - ・ 障がい者の人権の尊重及び障がい者虐待防止条例について
 - ・ 障がいの特性と支援方法について
- ② 新任従事者研修（支援員）
 - ・ 障がい福祉サービス等についての基本的な知識
 - ・ 障がい者の人権の尊重及び障がい者虐待防止条例について
 - ・ 障がいの特性と支援方法について
 - ・ 個別支援計画に基づいて質の高いサービスを提供するための知識と支援技術

(4) 熊本県障害者虐待防止・権利擁護研修

障害者福祉施設又は障害福祉サービス事業所等の管理者又はサービス管理責任者等を対象として、以下の障害者福祉施設等における障害者虐待の防止と対応研修を実施する。なお、必要に応じて、入職2年以内の初任者向けの研修を実施する。

- ・ 障害者虐待防止に関する基礎知識や障害者の権利擁護に関する意識啓発
- ・ 障害者虐待防止委員会の設置等、具体的な虐待防止の体制づくり
- ・ 身体拘束や行動制限を廃するための具体的な取組
- ・ 就労系事業所等における使用者虐待の発見と対応方法等についての研修

(5) 指定障害福祉サービス事業者等集団指導

- ・ 実地指導の結果について
- ・ 報酬改定及び年度当初の届出にかかる留意事項について
- ・ 障害者虐待防止のための取組みについて
- ・ 労働基準法について
- ・ その他

(6) 工賃向上計画支援研修

【熊本県工賃向上3か年計画に記載した研修テーマ例】

- ・ 商品、サービスの開発及び内容の改善
- ・ 商品デザイン、包装、陳列等の改善

- ・新規顧客、取引先の開拓及びその拡大
- ・ホームページ、ブログ、フェイスブック等を活用した情報の発信
- ・マーケティング、ブランディング
- ・営業戦略、営業スキル
- ・ビジネスマナー
- ・作業効率の改善、生産管理
- ・品質管理、商品及び景品表示
- ・原価計算、就労支援会計等財務管理
- ・事業所職員の意識改革
- ・先進事例、優良事例紹介

(7) 就労継続支援A型事業所運営支援研修

- ・先進事例、優良事例紹介
- ・障がいの特性と支援方法
- ・報酬、基準等について 等

(8) 同行援護従業者養成研修

① 同行援護従業者養成研修（一般課程）標準カリキュラム

	科目名	時間数	内容
講義	(1) 視覚障害者(児)福祉の制度とサービス	1	視覚障害者(児)福祉の制度とサービスの種類、内容、役割を理解する。
	(2) 同行援護の制度と従業者の業務	2	同行援護の制度と従業者の業務を理解する
	(3) 障害・疾病の理解①	2	業務において直面する頻度の高い障害・疾病を医学的、実践的視点で理解するとともに、援助の基本的な方向性を把握する
	(4) 障害者(児)の心理①	1	視覚障害者(児)の心理に対する理解を深め、心理的援助のあり方について把握する
	(5) 情報支援と情報提供	2	移動中の必要な情報支援、情報提供の基礎を習得する
	(6) 代筆・代読の基礎知識	2	情報支援としての代筆・代読の方法を習得する
	科目名	時間数	内容
講義	(7) 同行援護の基礎知識	2	同行援護の目的と機能を理解し、基本原則を把握する
演習	(8) 基本技能	4	基本的な移動支援の技術を習得する

	(9) 応用技能	4	応用的な移動支援の技術を習得する
計		12	

② 同行援護従業者養成研修（応用課程）標準カリキュラム

科目名		時間数	内容
講義	(1) 障害・疾病の理解②	1	業務において直面する障害・疾病を医学的、実践的視点でより深く理解する
	(2) 障害者(児)の心理②	1	視覚障害者(児)の心理に対する理解を深め、適切な対応ができるよう習得する。
演習	(3) 場面別基本技能	3	日常的な外出先での技術を学ぶ
	(4) 場面別応用技能	3	目的に応じた外出先での技術を習得する
	(5) 交通機関の利用	4	交通機関での移動支援技術を習得する
計		12	

(9) 行動援護従業者養成研修

行動援護従業者養成研修標準カリキュラム

科目名	時間数	内容	
I 講義	10		
1 強度行動障害がある者の基本的理解	2.5	①強度行動障害とは	本研修の対象となる行動障害
			強度行動障害の定義
			強度行動障害支援の歴史的な流れ
			知的障害／自閉症／精神障害とは
			行動障害と家族の生活の理解
			危機管理・緊急時の対応
②強度行動障害と医療	強度行動障害と精神科の診断		
	強度行動障害と医療的アプローチ		
	福祉と医療の連携		
2 強度行動障害に関する制度及び支援技術の基礎的な知識	3.5	③強度行動障害と制度	自立支援給付と行動障害／他
		④構造化	構造化の考え方
			構造化の基本と手法
			構造化に基づく支援のアイデア
		⑤支援の基本的な枠組みと記録	支援の基本的な枠組み
			支援の基本的なプロセス
			アセスメント票と支援の手順書の理解
			記録方法とチームプレイで仕事をする大切さ

		⑥虐待防止と身体拘束	虐待防止法と身体拘束について 強度行動障害と虐待
		⑦実践報告	児童期における支援の実際 成人期における支援の実際
3 強度行動障害のある者へのチーム支援	2	①強度行動障害支援の原則	チームによる支援の重要性 支援の6つの原則 地域で強度障害の人を支える
4 強度行動障害と生活の組み立て	2	②強度障がいのある人の生活と支援の実際	行動障害のある人の家族の思い 日中活動場面における支援 夕方から朝にかけての支援 外出場面における支援
Ⅱ 演習	14	内容	
1 基本的な情報収集と記録等の共有	1	①情報収集とチームプレイの基本	情報の入手とその方法 記録とそのまとめ方と情報共有 アセスメントとは 様々なコミュニケーション方法
2 行動障害がある者の固有のコミュニケーションの理解	2.5	②固有のコミュニケーション	コミュニケーションの理解と表出 グループ討議／まとめ 感覚・知覚の特異性と障害特性
3 行動障害の背景にある特性の理解	2.5	③行動障害の背景にあるもの	行動障害を理解する氷山モデル グループ討議／まとめ
4 障害特性の理解とアセスメント	2.5	④障害特性とアセスメント	障害特性の理解 障害特性に基づくアセスメント 行動の意味を理解する
5 環境調整による強度	3.5	⑤構造化の考え方と方法	強みや好みを生かす視点 構造化の考え方 構造化の方法
		⑥支援の手順書の作成	日中活動場面における支援の手順書 外出場面における支援の手順書
6 記録の基づく支援の評価	1	⑦記録の収集と分析	行動の記録の方法 記録の整理と分析 再生アセスメントと手順書の修正
7 危機対応と虐待防止	1	⑧危機対応と虐待防止	危機対応の方法 虐待防止と身体拘束
合計	24		

(10) 強度行動障害支援者養成研修

① 強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）標準カリキュラム

科目名	時間数	内容	
I 講義	6		
1 強度行動障害がある者の基本的理解	2.5	①強度行動障害とは	本研修の対象となる行動障害
			強度行動障害の定義
			強度行動障害支援の歴史的な流れ
			知的障害／自閉症／精神障害とは
			行動障害と家族の生活の理解
			危機管理・緊急時の対応
②強度行動障害と医療	強度行動障害と精神科の診断		
	強度行動障害と医療的アプローチ		
	福祉と医療の連携		
2 強度行動障害に関する制度及び支援技術の基礎的な知識	3.5	③強度行動障害と制度	自立支援給付と行動障害 / 他
			(例) 支援区分と行動関連項目・重度訪問介護の対象拡大・発達障害者支援体制整備・強度行動障害支援者養成研修
		④構造化	構造化の考え方
			構造化の基本と手法
			構造化に基づく支援のアイディア
		⑤支援の基本的な枠組みと記録	支援の基本的な枠組み
			支援の基本的なプロセス
			アセスメント票と支援の手順書の理解
		⑥虐待防止と身体拘束	記録方法とチームプレイで仕事をする大切さ
			虐待防止法と身体拘束について
⑦実践報告	強度行動障害と虐待		
	児童期における支援の実際		
成人期における支援の実際			
II 演習	6		
1 基本的な情報収集と記録等の共有	1	①情報収集とチームプレイの基本	情報の入手とその方法
			記録とそのまとめ方と情報共有
			アセスメントとは
2 行動障害がある者の固有のコミュニケーションの理解	2.5	②固有のコミュニケーション	様々なコミュニケーション方法
			コミュニケーションの理解と表出
			グループ討議／まとめ
3 行動障害の背景にある特性の理解	2.5	③行動障害の背景にあるもの	感覚・知覚の特異性と障害特性
			行動障害を理解する冰山モデル
			グループ討議／まとめ
合計	12		

② 強度行動障害支援者養成研修（実践研修）標準カリキュラム

科目名	時間数	内容	
I 講義	4		
1 強度行動障害のある者へのチーム支援	2	①強度行動障害支援の原則	チームによる支援の重要性
			支援の6つの原則
			地域で強度障害の人を支える
2 強度行動障害と生活の組み立て	2	①強度障がいのある人の生活と支援の実際	行動障害のある人の家族の思い
			日中活動場面における支援
			夕方から朝にかけての支援
			外出場面における支援
II 演習	8		
1 障害特性の理解とアセスメント	2.5	①障害特性とアセスメント	障害特性の理解
			障害特性に基づくアセスメント
			行動の意味を理解する
2 環境調整による強度	3.5	①構造化の考え方と方法	強みや好みを生かす視点
			構造化の考え方
			構造化の方法
		②支援の手順書の作成	日中活動場面における支援の手順書
			外出場面における支援の手順書
3 記録の基づく支援の評価	1	①記録の収集と分析	行動の記録の方法
			記録の整理と分析
			再生アセスメントと手順書の修正
4 危機対応と虐待防止	1	①危機対応と虐待防止	危機対応の方法
			虐待防止と身体拘束
合計	12		

(11) 重度訪問介護従業者養成研修

重度訪問介護従業者養成研修（統合過程）標準カリキュラム

	科 目	時間数	内 容
講義	(1)重度の肢体不自由者の地域生活等	2	重度訪問介護の制度、サービスの内容とその役割
	(2) 基礎的な介護技術	1	<ul style="list-style-type: none"> ・介護の目的、機能と基本原則 ・介護ニーズと基本的対応 ・在宅介護の特徴とすすめ方 ・福祉用具の基礎知識と活用 ・介護者の健康管理
	(3) コミュニケーションの技術	2	<ul style="list-style-type: none"> ・言語障害の種類と特徴 ・言語障害のある肢体不自由者とのコミュニケーションの方法
	(4) 喀痰吸引を必要とする重度障害者の障害と支援に関する講義・緊急時の対応及び危険防止	3	呼吸について 人工呼吸器について 口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内部の吸引 喀痰吸引の手順、留意点、緊急時の対応等
	(5) 経管栄養を必要とする重度障害者の障害と支援に関する講義・緊急時の対応及び危険防止	3	健康状態の把握 嚥と排泄(消化)について 胃ろう、腸ろうと経鼻経管栄養 経管栄養の手順、留意点、緊急時の対応等
演習	喀痰吸引等に関する演習	1	喀痰吸引(口腔内)(鼻腔内) 喀痰吸引(気管カニューレ内部) 経管栄養(胃ろう・腸ろう) 経管栄養(経鼻)
実習	(1)基礎的な介護と重度の肢体不自由者とのコミュニケーションの技術に関する実習	3	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な介護方法 ・重度の肢体不自由者とのコミュニケーション
	(2)外出の介護技術に関する実習	2	<ul style="list-style-type: none"> ・車いすへの移乗に際しての抱きかかえ方や移乗の方法 ・ 車いすでの移動を介護する場合の車いすの取り扱い方や平地、階段での移動方法など
	重度の肢体不自由者の介護サービス提供現場での実習	3.5	重度の肢体不自由者の介護サービス提供現場での実習 (障害程度区分5又は6である肢体不自由者に対する介護サービス提供現場を1カ所以上含むこと)
	計	20.5	

(12) 喀痰吸引等研修

		第1・2号		第3号	
		科目又は行為	時間又は回数	科目又は行為	時間又は回数
基本 研修	講義	人間と社会	50時間	重度障害児・者の地域生活等に関する講義	8時間
		保健医療制度とチーム医療			
		安全な療養生活			
		清潔保持と感染予防		喀痰吸引等を必要とする重度障害児・者等の障害及び支援に関する講義	
		健康状態の把握			
		高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論			
		高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説			
		高齢者及び障害児・者の経管栄養概論			
		高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順解説			
	演習	口腔内の喀痰吸引	5回以上	喀痰吸引等に関する演習	2.5時間
		鼻腔内の喀痰吸引	5回以上		
		気管カニューレ内部の喀痰吸引	5回以上		
		胃ろう又は腸ろうによる経管栄養	5回以上		
経鼻経管栄養		5回以上			
救急蘇生法		1回以上			
実地研修	口腔内の喀痰吸引	10回以上	口腔内の喀痰吸引	医師等の表において受講者が修得すべき知識及び技能を修得したと認めるまで実施	
	鼻腔内の喀痰吸引	20回以上	鼻腔内の喀痰吸引		
	気管カニューレ内部の喀痰吸引	20回以上	気管カニューレ内部の喀痰吸引		
	胃ろう又は腸ろうによる経管栄養	20回以上	胃ろう又は腸ろうによる経管栄養		
	経鼻経管栄養	20回以上	経鼻経管栄養		

(13) 熊本県精神障がい者地域移行支援研修会

- ・研修内容は、企画委員会において検討・決定
- ・研修期間は1～2日
- ・構成
 - ① 講義
 - ② 実践報告
 - ③ グループワーク

(14) ファシリテータ養成研修（基礎編）

- ・ファシリテーションとは
- ・ファシリテータの役割
- ・ファシリテータのスキル 等